

大総務第 92 号
令和 5 年 2 月 16 日

大阪市外郭団体評価委員会
委員長 野村 祥子 様

大阪市長 松井 一郎
(担当 : 総務局行政部総務課法人グループ)

諮問書

大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例（平成 25 年大阪市条例第 10 号）第 7 条第 1 項に規定する外郭団体である公益財団法人大阪国際平和センターによる令和 4 年度の経営評価（対象事業活動の実績）の結果及び同条第 4 項に規定する当該経営評価の審査の結果について、同項の規定に基づき、別紙により諮問します。

令和4年度 事業経営評価

団体名	(公財)大阪国際平和センター	所管所属名	教育委員会事務局
-----	----------------	-------	----------

中期目標	(1) 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容
	特定の歴史観や考え方に偏らず中立的(中立性の確保)に、事業を実施していくとともに、「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」ような展示を行い、もって大阪市内に居住する小中学生をはじめとする多くの市民に戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育むこと。
	(2) 中期目標期間
	令和2年4月1日から令和7年3月31日までの5年間
	(3) 中期目標の期間終了時において、(1)の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態
	中期目標期間、大阪市内に居住する小中学生をはじめとする多くの市民に、「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」ような展示を通して、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会が提供されている状態

外郭団体の自己評価	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価	
	令和4年度は、新型コロナウイルス流行の大きな波はあったものの、一律的な校外学習の自粛要請には至らず、様々な行動制限も緩和傾向にあったことから、来館者総数や小中学校の来館校数も前年度を上回ることとなった。今年度も魅力ある平和祈念事業や特別展示の実施に取り組むとともに、アンケート等により来館者ニーズの把握に努め、学校からの要望が多かった新しい定時映画を制作し、10月から上映を開始した。また、教員等の平和・人権研修等の積極的な誘致などにも力を入れ、当館のPRにも努めた。これらの取組により、年度目標は達成できたと評価している。	
	最終目標達成見込み	最終目標達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について
	ア ア：順調 イ：遅れあり ウ：計画の見直し必要	新型コロナウイルス感染症の変異株の流行などによる先々の社会情勢への懸念は残るものの、戦争の悲惨さ・平和の尊さを次世代に伝えていくための取組を着実にやっていく。そのためには、引き続きニーズを踏まえた小中学校等に対する効果的な平和学習の場の提供や、年々減少していく戦争体験者の証言アーカイブ事業などにも取り組んでいく。
当該事業年度の評価	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた本市の総合的な評価	
	令和2・3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、様々な行動制限については緩和傾向にあったことや、魅力ある平和祈念事業や特別展を実施することにより、全ての年度目標を達成し、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会を提供することに大きく貢献したことは評価できる。	
市の評価	助言等及び講ずるよう求める措置の内容【大阪市外郭団体等への関与及び監理に関する条例第7条第5項】（※必要な場合のみ）	

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組一 1

(※分野ごとの評価)

中期計画	団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容
	大阪市小学校長会や中学校長会等において、平和学習の場としてピースおおさかの利用を呼びかけるとともに、来館率の低い区の小学校長会などに働きかけを行っていくことにより、小中学校の来館率を高めていく。

年度計画達成状況

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容			【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容			
最も来館者数の多い区分である小中学生の来館を更に促進するため、小中学校校長会などの学校関係者の集まりにおいてPRを行い、来館率を向上させる。 また、教員等を対象とした平和・人権に関する研修会を誘致することで、当館の知名度を高め、小中学校の来館につなげていく。			小中学校の校長会など合計17回、学校関係者に「ピースおおさか」のPRを行い、来館誘致に努めた。 また、将来的な小中学校の来館につながるよう約1,300人の新任教員を対象とした教員初任者研修を誘致した。			
指標Ⅰ	大阪市立小学校全校に対する来館率					
	R2(4月～12月)	R3(1月～12月)	R4(1月～12月)	R5(1月～12月)	R6(1月～12月)	
目標値	18%	31%	55%	85%	85%	
実績値	28.5%	45.5%	68.3%			
当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a：目標達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった				
指標Ⅱ	大阪市立中学校全校に対する来館率					
	R2(4月～12月)	R3(1月～12月)	R4(1月～12月)	R5(1月～12月)	R6(1月～12月)	
目標値	4%	15%	22%	25%	25%	
実績値	10.8%	20.8%	22.8%			
当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a：目標達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった				

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	A	A: 指標全部達成 B: 指標全部未達成 C: 指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	A	A: 「順調」 イ: 「遅れあり」 ウ: 「計画の見直し必要」
	当該事業年度の達成状況について					
	令和4年度は、一律的な校外学習の自粛要請はなく、教育活動も平常化しつつあったことから、小中学校の来館は、昨年度を大きく上回る事となった。混雑防止のため、予約段階で入館人数の制限を行いつつも、大阪市立小学校の来館校数は192校、来館率は68.3%、大阪市立中学校の来館校数は29校、来館率は22.8%となり、目標を超える来館率を達成することができた。					
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について					
市の審査	学校の来館が増加してきたとはいえ、令和4年度はコロナ前の8割程度の水準となっている。コロナ前には来館実績があったがいまだ来館来ていない学校に対して、引き続き校長会等でのPRや学校への案内状の送付により更なる来館率の向上を図っていく。					

市の審査	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	A	A: 「順調」 イ: 「遅れあり」 ウ: 「計画の見直し必要」	「様式1: 中期目標(3)」に対する取組の有効性	A	A: 有効であり、継続して推進 B: 有効でないため、取組を見直す
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果					
	新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、校外学習の自粛要請はなくなったことから、小中学校の校長会などへのPR、教員等の研修会を誘致することにより、目標を達成することができたため、評価はおおむね妥当である。					
	「中期目標」達成の視点からみた審査結果					
市の審査	新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、校外学習の自粛要請はなくなったことから、中期目標で設定した大阪市立小学校全校に対する来館率55%以上、大阪市立中学校全校に対する来館率22%以上を達成した。小中学校へのPRなどを更に強化し、次年度の目標達成を図りたい。					

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－2

(※分野ごとの評価)

中期計画	団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容
	来館した大阪市立の小学校に対してアンケート調査を実施し、「ピースおおさかが平和学習の場として役立ったのか」という問いに対して、4段階中最上位の「役立った」と回答した割合85%を計画期間中維持するように努める。

年度計画達成状況	【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容	【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容				
	館内見学と合わせて鑑賞する小中学校が多い定時映画について、新しいアニメ作品を制作し、平和学習としての効果・満足度を高める。また、併せて施設・設備の改修等により見学時の快適性の向上を図る。	常設展示や特別展示の実施、定時映画の上映、ワークシートの提供等を通じて、平和学習としての効果・満足度を高めるための環境づくりに努めた。特に、定時映画については、天王寺動物園の協力を得て新作アニメを制作し、10月から上映を開始した。また、引き続き計画的な施設・設備の改修を行った。				
	指標Ⅰ	来館した大阪市立小学校の平和学習到達度				
		R2(4月～12月)	R3(1月～12月)	R4(1月～12月)	R5(1月～12月)	R6(1月～12月)
	目標値	85%	85%	85%	85%	85%
	実績値	88.9%	93.5%	92.9%		
当該年度の目標達成状況		a(i)	《達成状況》 a：目標達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった			

外郭団体の自己評価

指標の達成状況	A B：指標全部未達成 C：指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」
当該事業年度の達成状況について			
コロナ禍において混雑なく見学や映画鑑賞し、ワークシート等を通じて学習できる環境を提供することが重要と考え、予約段階から入館調整を行った。また、学校アンケート等によりそのニーズを把握し、可能なものは取り入れ、92.9%の学校から「平和学習の場として役立った」との回答があった。その他施設面での改善を図るとともに、校外学習にあたって強い要望である雨天時等の昼食場所の提供にも努め、平和学習の効果・満足度を高める取組が評価された結果、高い平和学習到達度（＝学校満足度）になったと認識している。			
最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について			
次年度以降も、快適に平和学習を行う環境確保に努め、アンケートにより学校のニーズを把握し、実現可能な事項は改善を図り、平和学習の効果や満足度を高めていく。			

市の審査	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	「様式1：中期目標(3)」 に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果					
	学習環境の整備、特別展等の実施などにより、目標を達成することができたため、自己評価は妥当と考える。					
	「中期目標」達成の視点からみた審査結果					
	校外学習の自粛要請はなくなったものの、依然として新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、団体予約受付時の入館曜日や時間の調整を継続して行い、学習環境を維持したため、目標値よりも高い平和学習到達度があった。また、設備の改修を行うとともに、児童・生徒の関心の高い特別展を実施したことも目標の達成に寄与したと考えられる。次年度も目標達成ができるように小中学生のニーズの把握に努められたい。					

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－3

(※分野ごとの評価)

中期計画	団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容
	ピースおおさかの企画事業の参加者に対しアンケート調査を実施し、「今回参加していかがでしたか」という問いに対し、5段階中上位2つの「とてもよかった」「よかった」と回答した割合75%を計画期間中維持するよう努めていく。

年度計画達成状況

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容				【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容		
次の世代に戦争の悲惨さと平和の大切さを継承していくため、魅力ある特別展や企画事業等の実施により、その情報発信に努めていく。				次の世代に戦争の悲惨さと平和の大切さを継承していくため、大阪大空襲の日や終戦記念日など節目の時期に平和祈念事業を4回、特別展示を4回(他館等と連携3回)実施し、その情報発信に努めた。		
指標Ⅰ	来館者満足度					
	R2(4月～12月)	R3(1月～12月)	R4(1月～12月)	R5(1月～12月)	R6(1月～12月)	
目標値	75%	75%	75%	75%	75%	
実績値	81.2%	92.7%	92.2%			
当該年度の目標達成状況		a(i)	《達成状況》 a：目標達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった			

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	A	A：指標全部達成 B：指標全部未達成 C：指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」
	当該事業年度の達成状況について					
	令和4年度も、戦争の悲惨さ・平和の尊さを次世代に伝えていくため、限りある財源の中で創意工夫をし、魅力ある事業となるよう努めた。その結果、平和祈念事業及び特別展をそれぞれ4回実施した。平和祈念事業としては、3月には動物のいのちをテーマに講演会を、8月は終戦の日戦没者追悼式と平和コンサートを、9月はユダヤ人たちの救済に尽力した外交官をテーマに講演会を、12月に平和寄席を行った。アンケートでは「とてもよかった」「よかった」と回答した人の割合が92.2%と高評価を受けた。					
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について					
	世界的規模で平和への意識が高まりつつある今日、当財団の役割は益々重要になってくると思われ、そのための魅力ある平和祈念事業や特別展などの取組を行っていく必要がある。平和祈念事業や特別展は、寄附金（平和寄金）を財源としており、引き続き広く寄附金を呼びかけ、これを有効活用しながら、なお一層魅力ある平和祈念事業等の開催に努め、平和の情報発信を行っていく。					

市の審査	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	「様式1：中期目標(3)」 に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果					
	新型コロナウイルスの影響は残るものの事業の中止はなく、魅力ある平和祈念事業及び特別展の事業を実施し、高評価につなげることができたため、自己評価は妥当と考える。					
	「中期目標」達成の視点からみた審査結果					
	今年度は、戦争の悲惨さ・平和の尊さを次世代に伝えていくための取組として、祈念講演会や平和寄席、コンサートなどが計画どおりに行われ、全てのイベントで目標とした来館者満足度75%以上を達成した。来年度も今年度の成果を継承し、高い満足度のある事業を行われたい。					